

5 徳島県立文学書道館 【予算 21,836千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業 【予算 1,500千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	第14回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(金)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:平成29年2月11日(土・祝)</p>	1,500,000	
	小計		1,500,000	

(2) 年鑑編集・刊行事業 【予算 500千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	ことのは文庫 森内俊雄エッセー集「みちしるべ」	<p>1997年2月から2001年3月にかけて、100回にわたって徳島新聞に連載されたエッセー「みちしるべ」を収め、ことのは文庫の1冊として発行する。徳島のことも度々登場。“人生の指針”となるエッセー集とする。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部</p>	500,000	
	小計		500,000	

(3) 教育普及育成事業 【予算 2,162千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について考える。</p> <p>日時:4月～9月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	193,000	
2	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>2回の展覧会と反戦のテーマに応じた文章を、講座生の中から希望者8人が5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月～9月(全3回) 会場:講座室</p>	10,000	
3	文学講座 現代文学を読み解く	<p>新人賞や芥川賞を受賞した作品や、話題になっている作品についての読書会。参加者が意見を出し合うほか、毎日新聞に書評を連載している関西大学の増田周子教授に小説の読み方をアドバイスしてもらおう。</p> <p>日時:5月～2月(全5回・各土曜) 会場:講座室</p>	160,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
4	文学講座 映像と文学	国内外の映像化された文学作品を、映像を観ながら紹介する。授業で映画を用いるなど、映像に詳しい徳島大学の依岡隆児教授に依頼する。 日時: 6月～11月(全4回・各土曜) 会場: 講座室	80,000	
5	文学講座 親子で楽しむ絵本づくり	県内で活躍している児童文学作家による絵本づくり講座。想像力を働かせる楽しさや物語を創る喜びを体験しながら一冊の絵本を作る。 日時: 8月21、28日(全2回・各日曜) 会場: 講座室	120,000	
6	文学講座 若者のための小説家養成講座	18～39歳を対象にした小説家の養成講座。講師は自らが作家であり、実作指導に定評のある四国大学の佐々木義登氏。昨年が続いて2度目。 日時: 8月～9月、2月～3月(全9回・各土曜) 会場: 講座室	250,000	
7	文学講座 秋の文学講演会	現在、第一線で活躍している作家や詩人、歌人、俳人などを招き、これまでの歩みや自作についてお話しいただき、文学についての理解を深め、世界や人間の在り方を考える。 日時: 10、11月(全2回) 会場: ギャラリー	450,000	
8	第15回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。各自が選んだ文学作品を5分以内で朗読する。15周年記念として、朗読の指導者を迎えて、ゲスト朗読していただく。 日時: 9月24日(土) 会場: 講座室	150,000	
9	書道講座 かなを学ぶ いろは歌	かなの基本である「単体」を、いろは歌を使って練習する。次年度の「連綿」(続け書き)につなげる講座。 日時: 未定(全3回・各日曜) 会場: 実習室	76,000	
10	書道講座 書道創作講座 楷書	これまでに開催した書体別基本講座を踏まえた創作講座。楷書の筆遣い、字形、紙面のまとめ方など、楷書の創作法を学び、楷書作品を創作する楽しさを知ってもらう。 日時: 未定(全3回・各日曜) 会場: 実習室	74,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
11	書道講座 自作のカレンダーを作ろう	<p>実用書を通して、書への関心と興味を深める講座。自作書のオリジナルカレンダー(B5版・卓上)を製作する。小学生から一般を対象とする。</p> <p>日時:10月(全2回) 会場:実習室</p>	75,000	
12	書道講座 とてつもない絵手紙作家 ～小池邦夫	<p>「とくしま文化推進週間」にちなんだ講演会。絵手紙の創始者である小池邦夫氏を講師に招く。小池氏は東京学芸大学書道科に学ぶが中退、昭和53年37歳の折に雑誌「季刊 銀花」で1年間に6万枚の肉筆絵手紙を発表し話題を呼んだ。日本絵手紙協会の設立や、NHKテレビ「趣味悠々」で絵手紙の講師を担当するなどして、絵手紙を全国的に広めた。その小池氏に絵手紙や書道について語ってもらう。</p> <p>日時:11月13日(日) 会場:ギャラリー</p>	333,000	
13	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	<p>小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、漢字一字を特大筆で70cm×70cmの紙に書く。未経験の大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。</p> <p>日時:1月(未定) 会場:講座室・実習室</p>	55,000	
14	書道講座 初めての絵手紙	<p>絵手紙作家・小池邦夫氏の講演を受けて開催する、初心者対象の絵手紙実践講座。近年はパソコンやメールの普及により、直筆の葉書を書くことが少なくなっている。絵と文字で気持ちを伝える絵手紙の制作を通して、手書きの良さを味わい、文字や書に関心をもってもらおう。</p> <p>日時:未定(全3回) 会場:実習室</p>	76,000	
15	書道講座 楽しい表具 裏打ち	<p>自作の書を楽しく表具できるよう、表具の基本「裏打ち」を学ぶ。その技法を学び、自作を表具することで、さらに書に興味を持ってもらう。</p> <p>日時:未定(全2回) 会場:実習室</p>	60,000	
	小計		2,162,000	

(4) 展示事業【予算 17,674千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。年数回の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の小テーマ展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—	パネル更新代
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島にゆかりのある書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を広く紹介している。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—	
5	文学特別展 寂聴対談展 (特別展示事業)	瀬戸内寂聴の50年にわたる作家生活の中の対談をとりあげ、相手のプロフィール、写真、著作や書簡とともに展示紹介する。対談の相手は作家を中心とし、30人程度とする。 期間:4月23日～6月5日 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,700,000	
6	書道特別展 新収蔵 小坂奇石展 (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独創的で他の追随を許さない独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品約370点の傑作を収蔵しており、毎年それらの中から選りすぐりの作品を紹介している。本展は、平成25年に新たに寄贈を受けた作品を初公開する。 期間:6月25日～8月7日 38日間 会場:特別展示室・ギャラリー	1,738,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
7	文学特別展 森内俊雄展 (特別展示事業)	徳島大空襲の体験を描いた「眉山」や鳴門を舞台にした「梨の花咲く町で」などの小説があり、徳島と極めて縁の深い作家・森内俊雄。現代の不安、孤独、狂気、魂の救済といった問題を幻想的な作風で描き続ける作家の全貌を、徳島との関わりを中心に紹介する。 期間:8月11日～9月25日 41日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,200,000	
8	書道特別展 田中双鶴展 (特別展示事業)	田中双鶴(1912～2000年。現・阿波市出身)は、徳島県の書写書道教育や書壇に多大な功績を残した。県立学校や徳島大学、四国大学などで教鞭を執る傍ら、月刊競書誌「鳥跡」を53年間にわたり発行。また、県展に書道部門を創設し審査や運営に当たるなど、県書壇を牽引した人である。田中氏の書作品や関連資料を一堂に展覧し、書と業績を回顧する。 期間:10月1日～11月13日 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,803,000	
9	文学特別展 没後10年 茨木のり子の世界展 (特別展示事業)	「現代詩の長女」と呼ばれ、胸のすくような日本語で力強く、たおやかに、凜としてうたいつづけた茨木のり子の詩稿、創作ノート、日記、書簡、先立った夫のために書かれ、没後刊行された『歲月』の遺稿などを展示し、その詩の世界と女性として日々の暮らしを大切に生きた生き方を紹介する。 期間:12月17日～2月11日 42日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,887,000	
10	書道特別展 會津八一展 (特別展示事業)	歌人で東洋美術史学者、そして書家として類いまれな才能を発揮した會津八一(1881～1956年)。中国の古典を渉猟するとともに、明朝活字を参考に書の鍛錬を重ね、平明で読みやすい独自の書を追求した。會津八一の生まれ故郷にある新潟市會津八一記念館所蔵の書作品を中心に展示し、八一の書の魅力を紹介する。 期間:2月16日～3月20日 29日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,256,000	
11	文学収蔵品展 貴司山治と小林多喜二 (企画展示事業)	2015年2月20日付朝日新聞で新発見として報じられた「小林多喜二の遺体を囲む母セキたち」の写真を中心に、貴司山治が創刊した文学雑誌「文学案内」(1935～37年)などを展示し、貴司と多喜二の交友を紹介する。 期間:6月1日～7月31日 53日間 会場:文学常設展示室	196,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
12	書道収蔵品展 中林梧竹の楷書 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、海老塚的伝氏より寄贈の傑作を中心に約300点を県指定有形文化財として収蔵しており、毎年、梧竹の展覧会を開催している。今回は、梧竹の書体別展示の第1回目。梧竹の多様な楷書を展示し、魅力を紹介する。 期間:6月21日～9月28日 87日間 会場:書道美術常設展示室	219,000	
13	書道企画展 第1回 徳島県 児童・生徒書道席書創作コンクール展 (企画展示事業)	徳島県内の小学校4年生から高校3年生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し席書する全国的にも稀なコンクール。予選通過作品90点(各学年10点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各10点)、席書作品(90点)を展示し表彰する。 期間:12月3日～12月18日 14日間 会場:ギャラリー	954,000	
14	書道企画展 「今年の一字」展2016 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する一字、または思い出に残る漢字一字」を募集し、応募作品の全てをロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものとする。 期間:12月13日～12月27日 13日間 会場:1階ロビー	51,000	
15	文学企画展 古典を描くー飯原一夫展 (企画展示事業)	郷愁を誘う独特のタッチで徳島の古き良き時代や徳島大空襲の悲惨さなどを描いてきた画家・飯原一夫。今回は「古事記」「徒然草」など、神話や古典文学の世界に挑み、絵画とエッセーを組み合わせた新作を中心に展示する。 期間:12月22日～2月5日 34日間 会場:ギャラリー	570,000	
16	文学収蔵品展 三田華子「阿波狸列伝」展 (企画展示事業)	当館の文学展では、まだ取り上げていなかった常設展示作家・三田華子の小説「阿波狸列伝」を紹介する。 期間:1月24日～3月26日 54日間 会場:文学常設展示室	100,000	
	小計		17,674,000	
	合計		21,836,000	